

共武本

成形圖說

菜蔬部

二十七



特別
二一
144
26



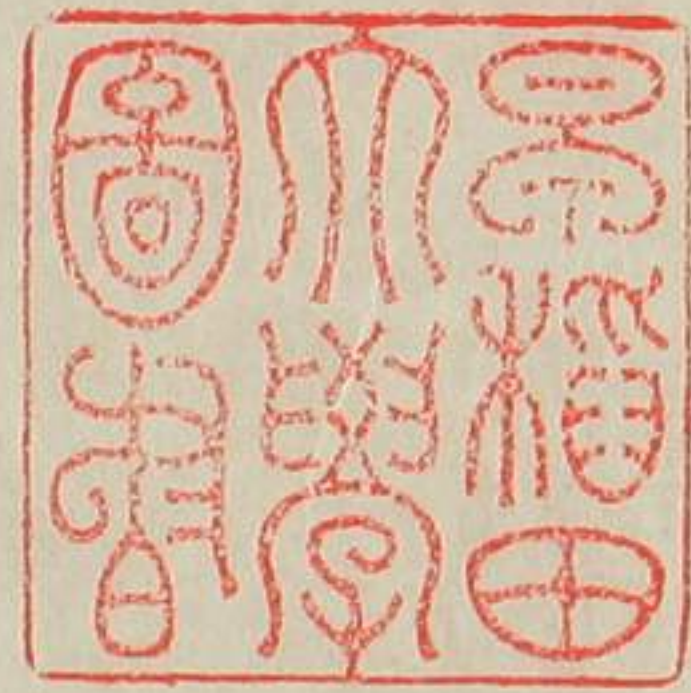
門加 /
號 / 44
卷 27

成形圖說卷之二十七

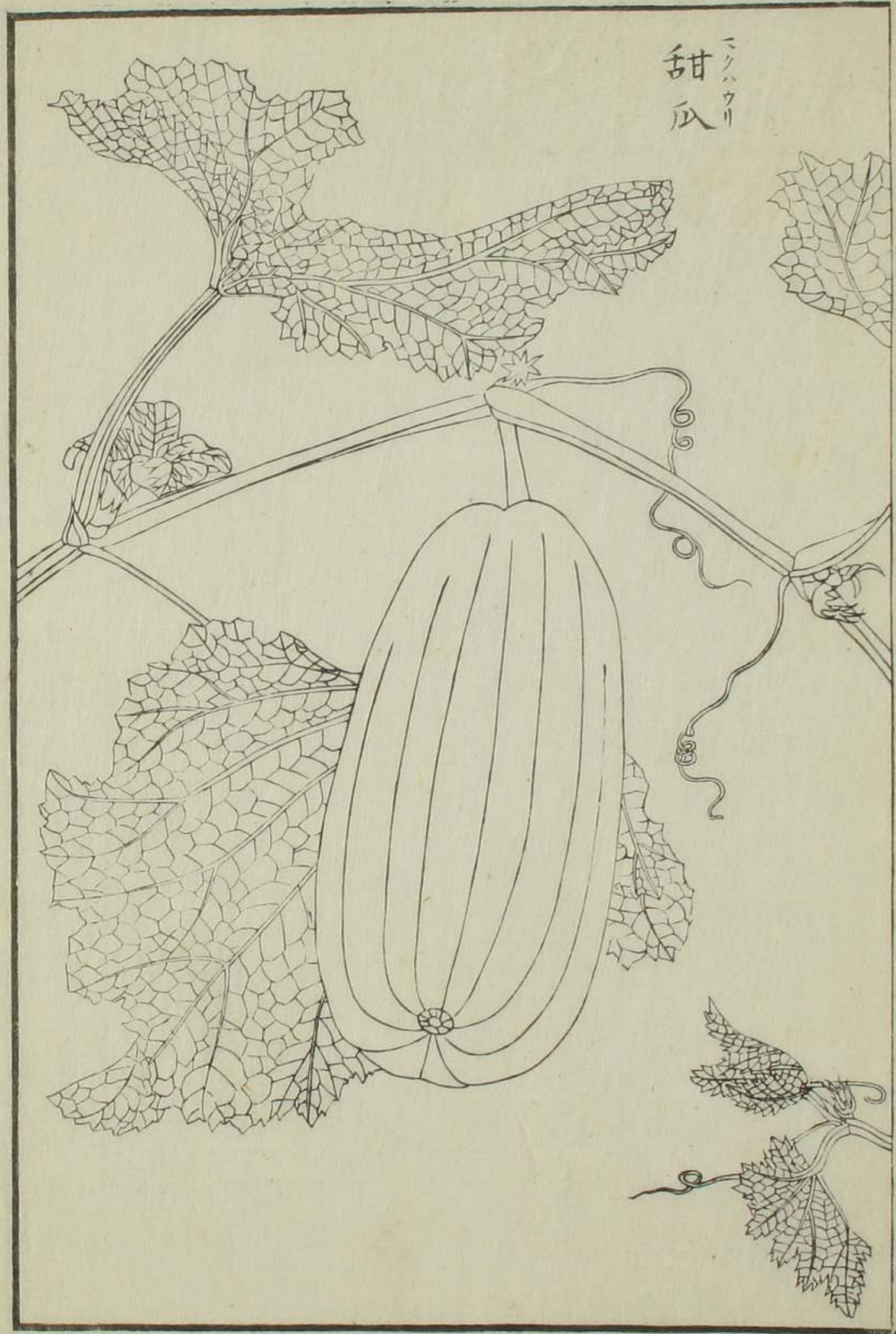
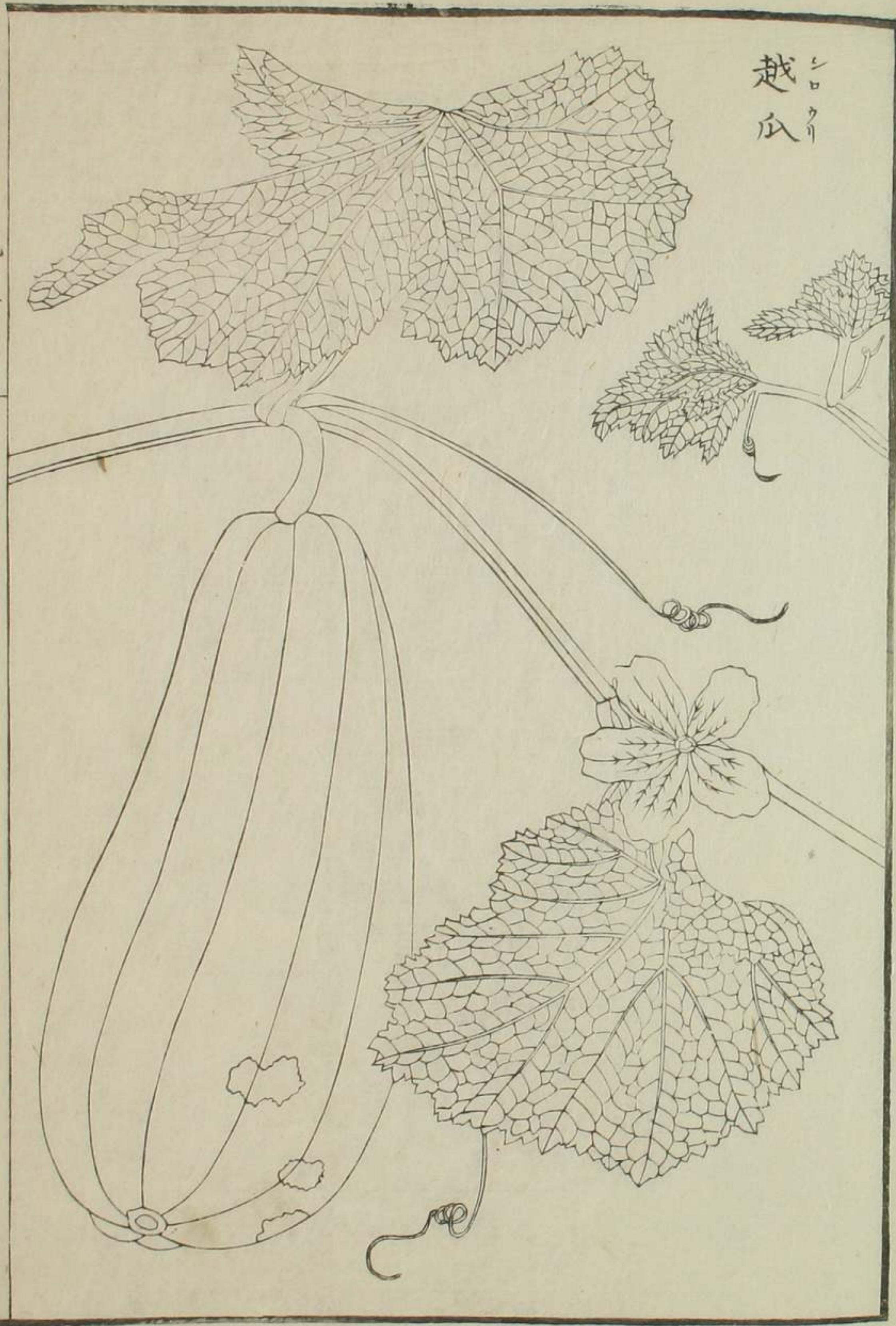
目錄

甜瓜 カウ 越瓜 カウ 晚瓜 カウ 砵瓜 カウ 南瓜 カウ 西瓜 カウ

附番南瓜



成形圖說卷之二十七



尺ゆ日次紀曰五月香具屋播磨守献初瓜於禁裏仙
 洞及高貴家蓋舊例子俵あり○瓜子成著てあり毎日午
 時蟬蟬蟻蟻の類と驅除すし瓜子蟻の附とすハ穀類の
 漬汁と焼バまる又魚内子の骨髓おと瓜科の丸右子
 蜜蟻の密附とる時取弁おと二三遍それバ終子青く○
 甜瓜ハ熱バ自蒂と離墜自落と成熱時止と消熟とり
 と自落ざると摘みハ一兩宿るるを經とる時味と
 出やり又熟み及むて肉腐あんでるものば速く摘ぶし
 ○久しく蓄み子俵ぐし宜しく竹籃子貯す氣洩とよ
 しどん○瓜汁ハ甘が中子鹹し誤て刀剣の屬子治ハ即

繡と生に其條衣裳に着バ色染る此もの蔓と曝し乾
 ば靱強て断ぶるおと鍍線のやし俗子天蠶絲と稱ふ
 家とて鈎の絡と次急の齒嚙切ぐし
 瓜乃實瓜實以上本州和名引雀島錫食經也○瓜子又引
引唐韻辨と川 瓜乃中子一名兔延白瓜辨也○和名小
文選瓜表遺孳 仁賀宇利乃保曾瓜の肉也 瓜乃邊
中子即瓢あり 瓜乃子也仁賀宇利乃保曾瓜の肉也
即瓜蒂あり返多と 仁賀宇利乃保曾瓜の肉也 瓜乃邊
日觀繁蔓處也其蒂 仁賢紀曰弘計天皇時皇太子億計侍宴取瓜將喫無刀
 子 天皇親執刀子命其夫人小野傳進夫人就前立置刀

と食てよし ○氣瓜味甘美し 吐方子用と子其味
 辛苦し 試前子産 ○東奥子金小瓜わ少色紅み味美し
 氣味甘く性寒なり 梶原性全萬安方曰瓢と除て食へば
 人と害やむ 按即陶弘景 此瓢子小毒あるをりあり ○
 食鑑曰昔一士人の娘児十二歳大便閉結おと廿日餘り
 服藥驗おし蜜導法を用むとし侍女その肛門と覗ふと
 瓜子数枚窻口と塞くと尻けり乃瓜子一二椀許と
 取出し蜜煎香油と紙縫板板子塗谷道の中子入るおと
 半日結糞瓜子と下して痊む此瓜子胃子へく爛せむ
 害と作おとかくわおとし可戒之と云るせり ○貝原本

料曰天氣風涼の日及食滯腹痛の時甜瓜と食ふ登り
 瓜と喫バ目と患ふ此事存料子載ざれど害と爲
 おと必也 ○凡瓜の毒と治るハ瓜の皮と粉おし湯に
 て用ふ ○髪の毛抜くこと生れハ甜瓜の系と搗絞てそ
 汁と塗て髪生る然して髪毛落む ○凍爛寵瘰子ハ瓜の
 皮と陰乾し粉にして煮て洞附べし 以上和方 ○生香
 膏 口氣熱し臭甜瓜子 子と煎去てと乳鉢おて綿ばくと
 研て蜜と少し入煉綿ばくありふると少しの口瘡子
 塗又口小街と居べし汁と吞ても苦しうぞ ○丁香散
 鼻痔並息肉河りく諸の香と嗅ぐら子瓜蒂細辛等分

細末し綿子包^ズて鼻孔^ハ子挿^セぶし鼻^ヲあ^ラて^テ流^シの^香と
 関^ク久^クう^ウて息肉^ハう^エお^シ○黄^疸み^ハ凡^ハ黄^疸子^三種^ノ
 疸^ニ小^ハ黄^々疸^三子^ハ白^黄疸^也黒^黄疸^也黒^子也^黄疸^也黒^子也^黄疸^也
 目^ハ眼^生子^黄あり^白黄^疸は^眼中^ハ常^ノの^如く^有る^也
 瓜^蒂赤^小豆^生稗^粟生^三味^等分^と細^末し^合て^痰重^ク
 大豆^二の^分と^鼻の中^に入^べし^痰軽^クば^大豆^一の^分
 と^鼻の^穴に^入る^筒と^もて^吹お^とし^痰重^テ息^有り○大^人
 小^兒久^ク風^痲と^患ひ^或は^纏喉^風或^ハ風^疹の^痰重^シ
 瓜^蒂と^細末^シ壯^年力^量者^ハ錢^一文^の四^分が^一
 分^許又^小兒^老者^の疳^積人^ハ是^ガ半^分許^と胡^の空^腹に^井花^水
 五^分て^流べ^し良^久く^流と^壺造^味と^吐き^出し

鹽^ヲ多^クと^盛そ^ウ子^ハ唾^津と^入て^身を^洗ひ^きく^とて^光
 る^のあり^流る^河白^粥と^温めて^食ふ^若流^沫と^多く
 吐^て血^痰と^多く^ハ麝^香と^煎し^温めて^一盞^許飲^べ
 づ^し又^麝香^ハ細^末し^湯子^拌て^飲も^よろ^し
 以上^萬安^方

白^瓜和^名鈔^ノ類^聚雜^要生^物五^杯の^中白^瓜あり^通證^曰宇^利
 瓜^利為^布利^者通^音也^佐佐^州の^名あり^瓜の^中
 瓜^角瓜^本州^和名^早瓜^延喜^式
 瓜^伊良^利和^漢圖^會花^圓安^佐宇^利朝^蓋早^瓜の^類也^早瓜^也
 越^瓜開^寶白^瓜和^名鈔^ノ引^第名^苑女^臂一^名羊^角白^瓜之^名
 也^也○^南園^史の^白瓜^と同^し又^各瓜^も

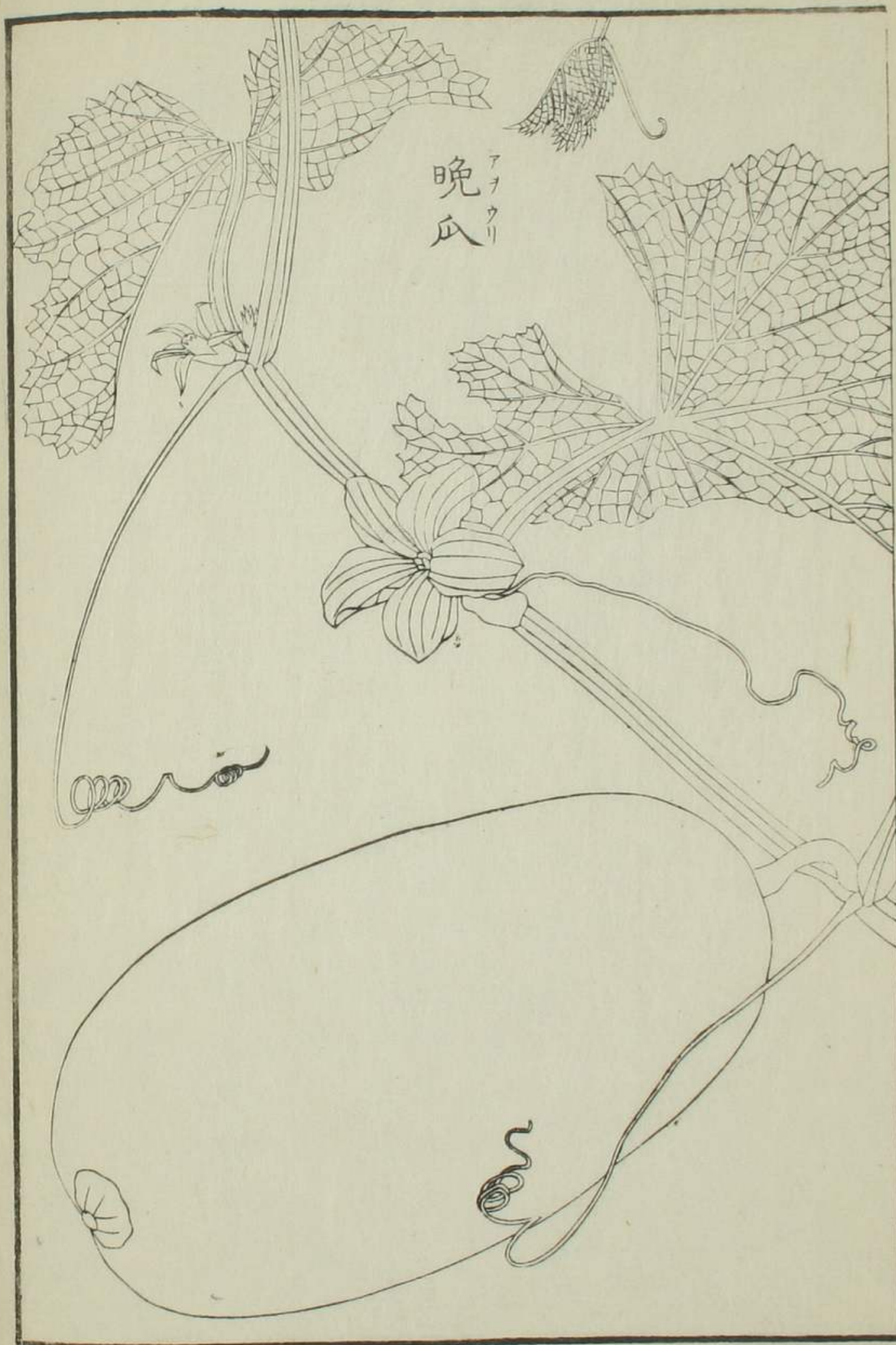
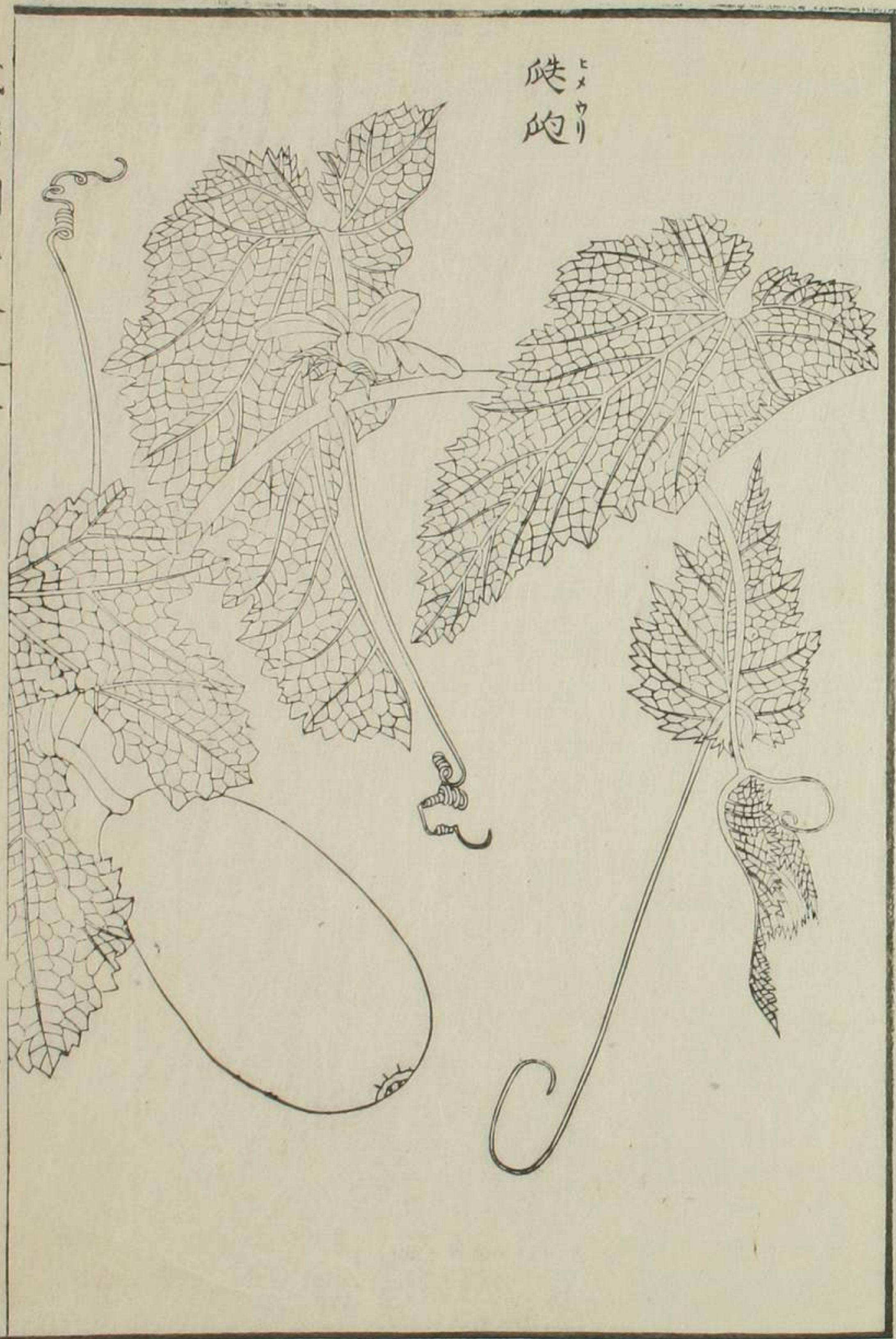
瓜ハ京畿の地ニ宜シ凡式中あどに早瓜と出せしハ亦
 多く甜瓜スズメあがくも蒔タネとし贈オマケとすハ瓜ウリハ即越瓜シヨク子
 了ハありるハ○凡瓜ウリ子早中晩の三輩ミヤウリあり内膳式ウチノケ管ツル早
 瓜一段種子四合五勺總單工四十六人中下手半人下二月拂ハシ
 虫十二人オビ壅并芸ウツ第一遍五人上三月第二遍四人上三月第三
 遍三人上四月又曰五月五日山科園進早瓜一捧若不實者獻
 花根ハネ是早瓜の仰り方あり並ナ地を耕コエて油滓魚肉アブラカスの
 肥コを施シ殆シふハ上ニに蔭ケ入ル○凡ハ蒔タネ蔓ムサビの長ハ子ハ随ツくハ疇チウ子
 麦ムギと布フあハと度ド多クふハくハ上ニと蔓ムサビの草クサおトくハ子ハ以テ是レ
 系ケ黄ワウなるハ每ニ四五ニ月ニ子ハ實ミ熟スくハ初メハ淡ウス青アヲくハ熟スてハありハ法ハ白シ

亦青アヲとハ河カのハ形カタ子コ大オホ小コト長ナガ短ミダ品シ多クしハ守ウケ瓜ウリ甚シ齊イソ民タ要ス
 虫ムシ多ク系ケとハ噉カミてハ蔓ムサビとハ傷イタまシ毎ニ日ヒ日ヒ午ナらレをハ驅ウ除ヘべシ
 芽ツバナ花ハとハ束ツカてハ竹タケ子コ押オシくハをハ持テ揮ウちテ其ノ他ノ書カひク
 式シキのハ如シ此ノ越瓜シヨクハ頗ナるハ早ハくハ熟スくハかハ瓜ウリとハハハ
 めメりハ○瓜ウリ子コ存タ生ナ未ミ生ナ河カのハ生ナとハ俗ソク子コ裏ウラ日ヒ記キ子コ
 代タをハ魚イサ子コ乃ハちチ迄キりハつハ山ヤマ塚ツカのハらラ瓜ウリとハハハ
 瓜ウリ○瓜ウリのハ料リョウハ割キてハ膳ウチノケ材ツカとハしハ又マタ塩シホ蒔タネとハしハ日ヒをハ乾カし
 又糟漬カスツケとハ類ルイ聚ク雜ザツ要ス鈔テ子コ押オシ漬ツケ瓜ウリとハあハるハ即ツ塩シホ漬ツケ瓜ウリ
 して又糟漬カスツケ瓜ウリあり凡瓜ウリとハ醃ツケ截キみハあハるハ式シキ子コ三條サンジョウとハ裁キら
 瓜ウリハ石イシ料リョウ塩シホ四ヨ糟漬カスツケ瓜ウリ九ク斗ト料リョウ塩シホ一イチ斗ト九ク升シヨウ八ハチ合カウ滓シ醬シユウ二ニ斗ト七シチ升シヨウ

醬二斗 醬漬瓜 一斗九升八合 瓜味漬一石 料塩今奈良漬
 七升 料塩醬滓醬各瓜味漬一石 三斗 今奈良漬
 と云々の即式等の糟漬めて奈良の酒美醞しうがぬそ
 糟とて漬る亦名急し其法酒糟と春夏の中麩の内子
 搗收きば也黄赤くて凝脂の如し俗子踐込と云此時胎
 子瓜子大根と漬べし而瓜と漬るハ六月土用の中に解
 く菓子色のと擇むはし西片とあし蛤殻して瓢と刮出
 して其肉子灰と漬るおと一時許し水氣とあつて後そ
 灰と洗ひ去し拭定て而塩と蜜おと凡瓜十ハ片とあつ
 酒糟三十斤とあつて瓜と包蔵各合着ぬやうにしおく封
 し急ば大抵七十五日ふして成るもの也其取用する時ハそ

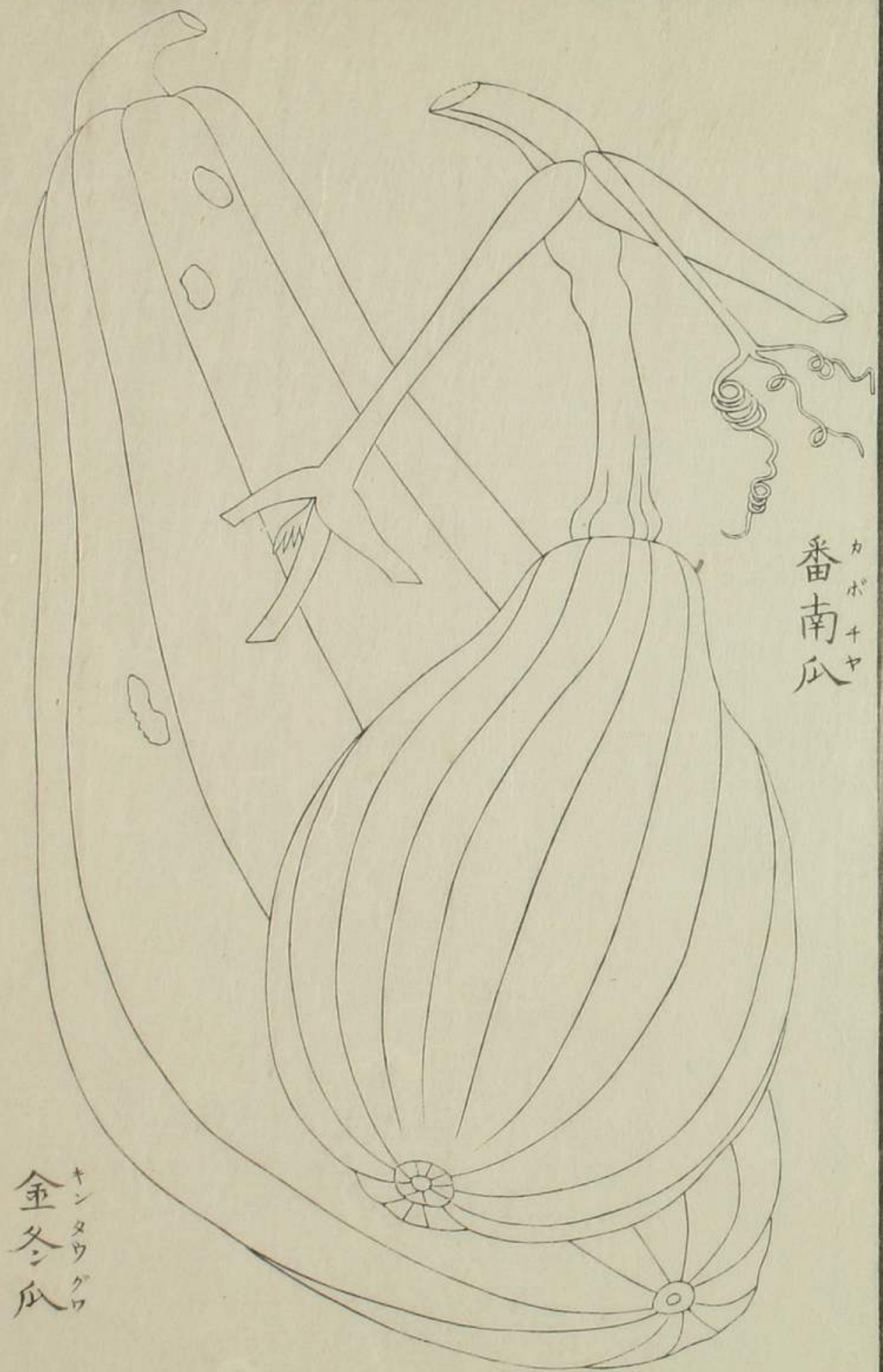
跡と仰て風と入るむ登くは○乾瓜漬ハ生瓜と縦小
 ハ子切劈瓢をあら塩と望し暑熱せしる上ハ晒乾おど
 六七日あつて能燥する時磁釜ハ貯置用子除て土沙と
 洗ひきり切片つゝ酒子浸し嚙み肺美あつ但晒乾時急
 糟漬のあつて預てを戒むべし○遵生ハ穢瓜の糟瓜と云ハ
 ありの事なり紫蘇漬ハ式ハ荏裏料瓜九斗とるえし此
 ざるるべし

氣味甘く性寒あつて毒あり○主治小便と利し酒毒と
 解く本○焼酒子解て人事と顧るに此汁と取生みて
 飲べし 水朝 經驗



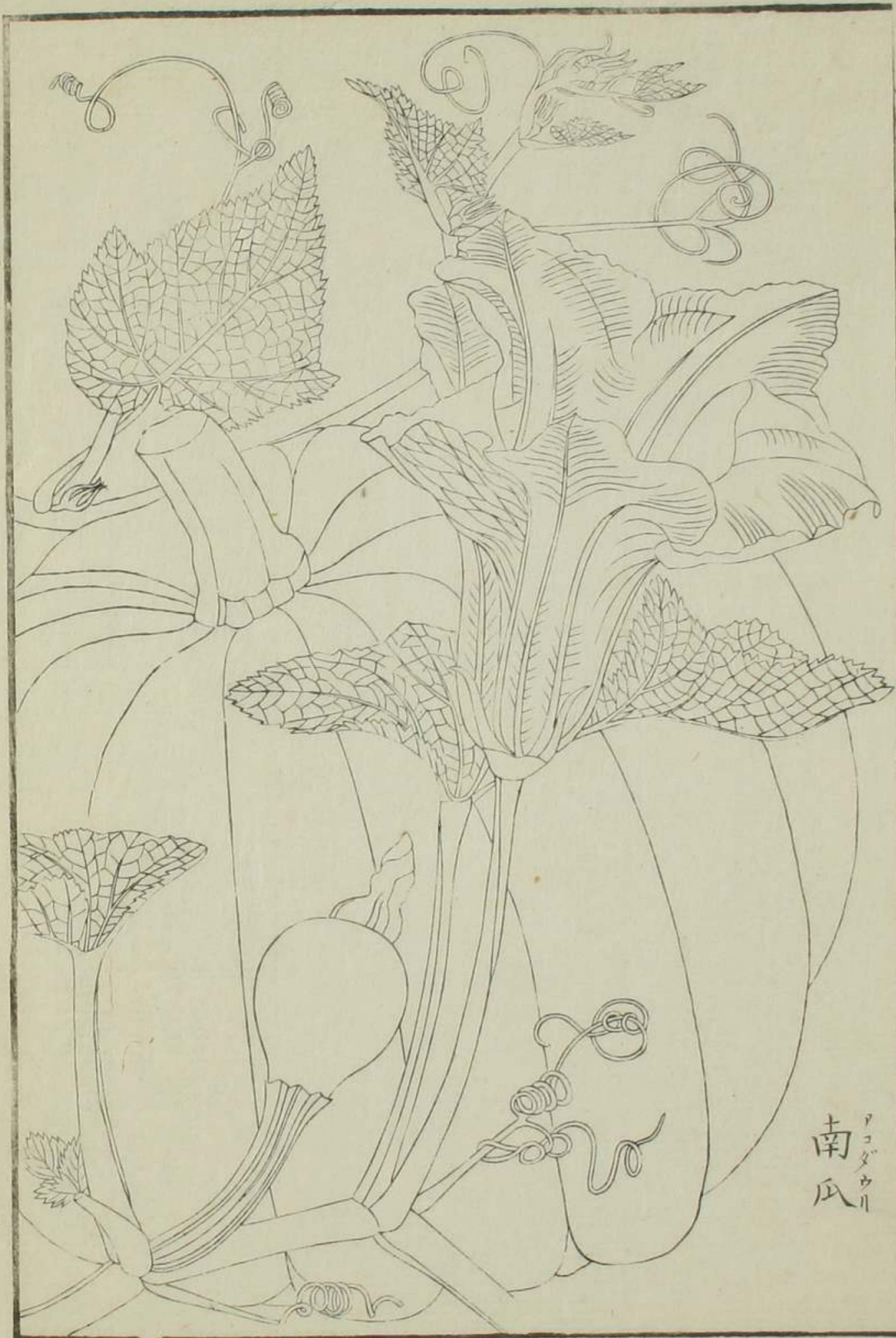
未み出
 凡字夫良て和字通例○即南瓜
 轉訛南蠻瓜多識
 南瓜 網 飯 瓜 行 厨 集 ○ 以上ハボウ
 番名 プラ ッ テ ポ ン プ ー ン 南 瓜 ケ レ イ ン ロ ン デ ホ
 安古太瓜アキタウ 本邦の産ふてわしは後ハ南瓜カボチャの
 源子耳し後ハ此アキタウのをも混マシて西州アキタウにてハボウブラと

呼ひおし南瓜とカボチャと稱つりとそまゝるに大
 しておく味の藤ウヰと南瓜カボとし小くて頸ネわり味の臍ウヰと番
 南瓜カボとつカボチャは南蕃の國シニおしてホウブラハ
 その蕃借みて本二種ニにてハア子アハ安古太瓜アキタウとホ
 ウブラと呼名ナやしシホ 東蒲塞國アキタウ一ハ甘菩遮國アキタウと作ア
 野必大食鑑西瓜部アキタウ阿古太瓜ハ二月下種四月引蔓アキタウ甚
 繁長可十餘丈節々生鬚根其莖中空其葉如蜀葵而大如
 荷葉ハナハ九月開黃キタ花似水瓜花子正圓大如水瓜皮上有稜
 一本可結數十顆其色有綠有黃有紅其味似水瓜而不美
 京師多有江東希見之一種凡字夫羅者移自蠻國而處々

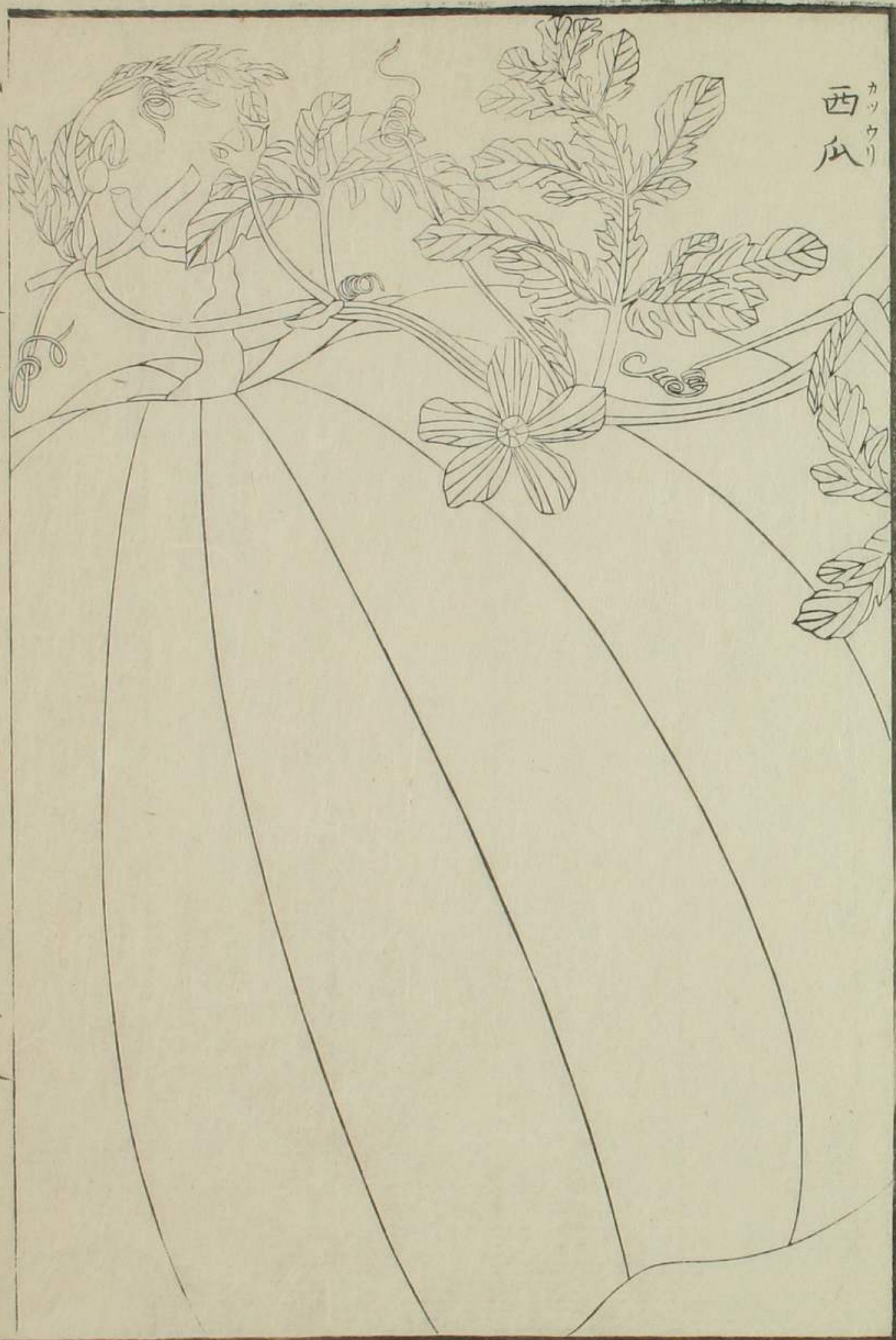


番南瓜

金冬瓜

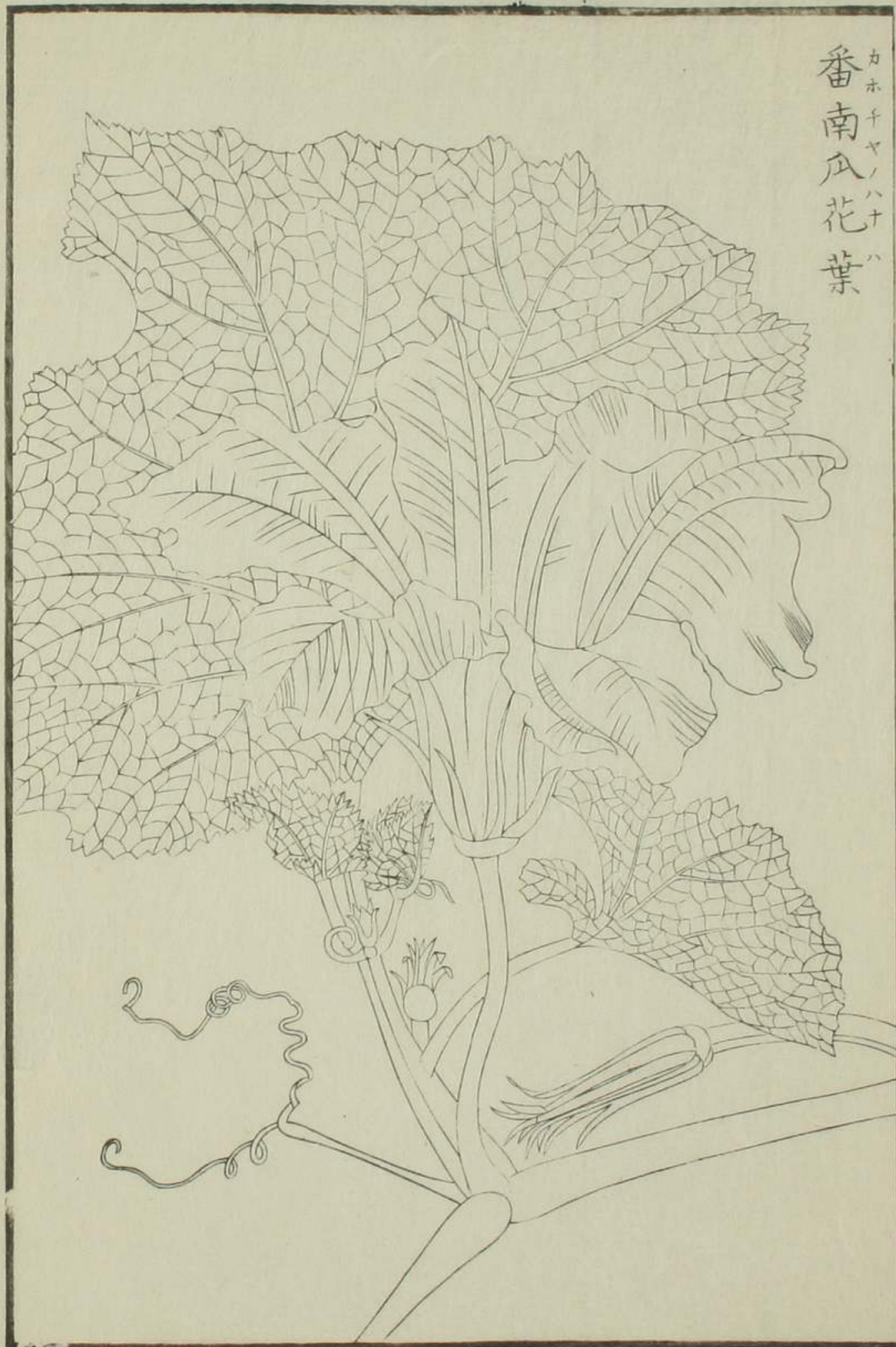


南瓜



西瓜 カッウリ

番南瓜花葉 カホキヤノハナハ



有之瓜大如水瓜秋熟色黄如金其味不佳昂是南瓜乎綱
目時珍云南瓜種出南蕃轉入閩浙今燕京諸處々有之矣
以上所說全く安古太瓜と同じさうハ苗時をやく南瓜
とボウブラと呼ひしと野心大ハ即南瓜とあるを以て
まの識さるしを又湯淺得之武具訓蒙園堂の西瓜形
とあるハ胃の稜ありく西瓜形と云ふを以て是二氏ハ
阿古太瓜と西瓜の類と混し多し一説にアコダ瓜と云
ふのは京畿及丹乃麻州にて青瓜と稱ふとの也と云
ふハ津田より菜瓜といひ江門より九漬と呼ぶゆのか
アコダの名の諸れしと云ふ今の南瓜ハ慶元元和の

交の舶來しよし大和本州に載り而京畿のハ延宝天
如中み初て載しといふも初西土より南瓜ハ舊く有し
と後に南方より傳つしもの、其味最嘉といはれて番
南瓜と云ふ名ハ負しを此間の番南瓜ハ昔時呂宋等
西商せしもの、煎子東藩寨に種を將來しり其名と
カボチヤとハ同じさうしてはて南瓜う、る法ハ食
鑑にいひし安古太瓜と同じく春苗を生しり一蔓十
餘丈のむら莖の中空にて多ハ蜀葵に似て是大なる園
圃の良地と費む古子墻屋の上の繞せし唯石石
中り夏月石熱しげを所より蔓枯し了ら又根葉を不

子肥地と化へ糞養し地子延るむる一茎二実を結
 ざらハあし六七月莢花と并くそ実扁く大合抱形をか
 了て切口の莢乾しハ堅みと樹子ささり如青緑色にて
 莢と種と熟バ黄褐とあり揉て風あす所子莢ハ久く保
 つるし梅子汝南圃史子北瓜青皮如碧苔色と云ふはボ
 ウブ子にて南瓜紅皮如丹楓色とあるはアコダウリか
 一種金冬瓜と称あり越瓜子似て朱し南瓜の形ふて
 冬瓜子非ざ又農書云浙中一種陰瓜宜陰地種之秋熟色
 黄如金皮膚稍厚可藏至春食之如新此本藩子僧ボウブ
 ラの單とス〜〜〜○果子子製り漬物子作人の知る所

あり○食ハ黄瓢と去て其肉を煮べし生かぐらハ何
 し○煎て焼酒の造るカボチヤもあし
 氣味甘く性温ふし毒あし多く食ふべ〜〜
 番南瓜ハ穀子茹み類て大あり東方にて唐茄子といひ
 又京歳外どみてカボチヤボウブと〜〜と〜〜しる名
 ありがし又南京ホウブと〜〜と〜〜浙江唐高が南京
 あり種と齋やしゆゑ南京を符やしりや西州の俗子浙
 守殿と〜〜の形小くて味のまさ〜〜あり○此一種
 全く南瓜と一般〜〜〜そ実緑蒂平小く末大し備前
 の状子磐磐子皮子斑點あり熟バ赤黄褐色をやり○凡

瘠地子載て融熟さるるものハ毛内晩実て味厚し同種カ
 ぐら肥壤子植しハ実を成おと密く在しと一へどとそ
 内柔晩て味厚し融熟しあむとそハ実子竹針と刺と
 いりり○凡此もの前あんずり地ハお年の冬より徐く
 斜溝の新泥を掘揚て所くハ晒し家よく乾くさハ沙土
 と拌て種下に合し其後ハ十分糞便と頻り澆るべし
 氣味甘く性温みく毒多し亦多く食ふおとあつれ
 加カ
 ツツ
 通字利和名鈔引筆名苑注至冬熟也
 西瓜音多織編し今スイクワと呼ハ西瓜乃唐瓜
 依伊字利

蓋西
 西瓜日用致富全書西瓜種類不一出自西域者特嘉故
 斗春種秋熟寒瓜本艸和名引第名苑寒瓜色青皮厚
 故曰西瓜熟寒瓜因強一名金劍一名地錦此金劍地錦
 了註瓜名西瓜熟寒瓜因強一名金劍一名地錦此金劍地錦
 景註瓜名西瓜熟寒瓜因強一名金劍一名地錦此金劍地錦
 之先種揚溪瓜秋生冬熟形畧長扁大熟色如臘脂味勝可
 瓜別種揚溪瓜秋生冬熟形畧長扁大熟色如臘脂味勝可
 留至夏瓜錄異青登瓜圃史天暑白虎湯蒙荃
 次年

此のハ源順の時既に本邦子傳へしハ也綱目陶弘
 景の説の如く五代之先已ハ浙東但無西瓜之名と云れ
 ハ此間是唐代付其の時或ハ此種を得て未西瓜と云名

を傳へて寒瓜と稱せしむるべりら或ハ此のハ
慶元の頃西土より舶渡りて河内と僧義堂が空花集和
西瓜詩曰西瓜今見生東海割破含玉露濃と他は僧義
堂ハ 後小松天皇應永中の人也當時西瓜ありしと
知らるるべしさらハ古の時にや此物所あらざり
顯して慶元の頃より天下に普りしと本綿種子
此 桓武御宇乃母一且樹藝之と中統して近代
復蕃殖せしむるを蓋領鈔集る所必本國に産さる
ものといふと亦載せしむるし江戸に西瓜ハ
寛永年中に初めて入りて薩摩よりゆきしと江戸に薩摩の

種子と上ふりて京江戸へ移るハ近室乃頃より山西瓜
又東北内沙村西瓜ハ上ふり白肉うすく中濃紅子黒
く舌のり粗くむて甘美と号せしと河内海と号し河内
河内沙村の地はは乃色種魚乃おとく微植園
て瓢紅赤に漿地ほし黄瓢の者と黄西瓜と云齒切沙と
して佳しは瓢を子黄とて子赤と赤と稱す伊勢
の赤堀村に産するもの也又は白く瓢黄く子赤と白西
瓜と云適小皮の味芳々の本州原始は月明瓜と
号す又長く苞乃如瓜と長西瓜と稱す京師にては

南京と呼ぶ是西江志の西瓜子て時珍リ謂長至サ二三尺
 とある者也他州子て南京と稱ふ者○瓜子子黒赤ト其
 色色多多而而黒子黒子金子金子と上上とし紅紅ハ下下とと○凡凡種種の種
 ハ瓜瓜と異異ありと六月六月を盛盛とと七月中七月中元元とと子子てて秋秋子子成
 するするものものは良良くく也也○凡凡熟熟とと否否とと試試るるは甲甲彈彈して
 音音阿阿和和しし子子ハ熟熟とと硬硬子子ハ否否ありあり○綱目綱目云云西瓜西瓜ハ五
 代代の時時同同統統ありありゆゆりり南方南方者者味味稍稍不不及及也也○然然とと本
 藩藩北北山川山川ハ南南陸陸ありありとと良良くく南南島島子子至至てて亦亦忘忘るる河河水
 ハ地道地道子子由由りりるるべしべし○昔昔時時大大隅隅馭馭那那益益敷敷島島子子番番船
 漂漂着着るるゆゆりり舟舟中中子子底底よりより上上までまで西瓜西瓜子子とと積積りり之

と問問みみ以以て穀穀食食子子代代子子極極て氣氣力力と健健子子よりよりふしふし答答へ
 大大船船一艘一艘の西瓜西瓜子子をを板板の無無ききもも想想ふふべしべし五五事
 畧畧子子瓜子瓜子とススイイククワワノノササ子子とと似似ししとと彼彼の方言方言子子由由し
 ありありとと和和漢漢唱唱酬酬子子天天和和三三年年朝朝鮮鮮乃乃信信使使來來朔朔の時時痢
 と患患ふふ者者多多しし彼彼國國の醫醫官官番番椒椒とと豚豚用用ヤヤじじれれババ各各平
 愈愈ヤヤりり我我の醫醫法法と問問みみ答答てて云云韓韓人人譯譯路路の炎炎暑暑
 を避避んん為為にに多多くく西瓜西瓜と食食ひひ加加にに痢痢と患患ふふ番番椒椒はは能能
 西瓜西瓜の毒毒と消消すすものものななれれババ兵兵へへつつりりととゆゆりり俗俗子子ハハ秋秋
 西瓜西瓜と食食ハハ下下痢痢と患患ふふといいひひ付付つつりり真真西西山山衛衛生生歌
 云云瓜瓜桃桃生生冷冷宜宜少少食食免免致致秋秋來來成成瘡瘡痢痢又又西瓜西瓜と多多茹茹てて能能

痛露^{カサ}乱^{カサ}と患^{カサ}し本^{カサ}本^{カサ}子^{カサ}乃^{カサ}之^{カサ}也^{カサ}

氣味甘く性寒し一^{カサ}て毒^{カサ}あり○主治^{カサ}渴^{カサ}と止^{カサ}め暑^{カサ}熱^{カサ}と滑^{カサ}

し一切の口瘡と療^{カサ}此^{カサ}本^{カサ}○手^{カサ}負^{カサ}腫^{カサ}て大小^{カサ}便^{カサ}下^{カサ}らざる子^{カサ}

は西瓜と取^{カサ}りて研^{カサ}水^{カサ}天^{カサ}目^{カサ}半^{カサ}分^{カサ}ありて、服^{カサ}べし和^{カサ}方^{カサ}一^{カサ}

○凡^{カサ}痲^{カサ}病^{カサ}子^{カサ}西瓜^{カサ}多く食^{カサ}ふべし○西瓜^{カサ}仁^{カサ}と食^{カサ}ふは子^{カサ}

と日^{カサ}子^{カサ}曝^{カサ}し火^{カサ}子^{カサ}て炒^{カサ}と子^{カサ}は油^{カサ}おのれと剥^{カサ}る○烟^{カサ}筒^{カサ}の

中^{カサ}脂^{カサ}衣^{カサ}子^{カサ}汚^{カサ}るると子^{カサ}瓜^{カサ}の仁^{カサ}を嚙^{カサ}くは子^{カサ}穢^{カサ}一^{カサ}ば

瘡^{カサ}子^{カサ}深^{カサ}あり達^{カサ}原^{カサ}○西瓜^{カサ}の瓢^{カサ}汁^{カサ}ありて人^{カサ}乃^{カサ}繫^{カサ}みハ獸^{カサ}の毛^{カサ}

と浸^{カサ}せば爛^{カサ}腐^{カサ}るなり食物^{カサ}本^{カサ}物^{カサ}

成
形圖說卷之二十七終

